

2023 年度放射線授業事例コンテスト 放射線授業事例

タイトル	持続可能な放射線教育をめざして ～ 「文部科学省放射線小学生副読本」問題練習を通して ～
対象（校種・学年）	小学校 1・2・3・4・5・6 年
教科・領域・単元	学級活動 ・ 総合的な学習の時間
ね ら い	文部科学省放射線副読本問題練習を通して、学年に応じた基礎的な放射線内容を確実に理解させ、講師に任せっきりの放射線出前授業から、Team-Teaching 授業へ、教師主体の放射線授業へ展開できるきっかけをつくる。
授業での実践	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施
キーワード	文科省放射線副読本小学生問題集、放射線量測定、人体への影響、防護
内 容	<p>2011 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故で、大量に放射性物質が放出され、福島県内外な被害を及ぼした。37 年間小・中学校では放射線教育が行われず、放射線に関する正しい知識を身に付けていなかったため、福島県民をはじめとする日本国民は、放射線を恐れ、不安の毎日を過ごさざるを得なかった。そこで「先生！放射線を教えて」という中学生 1 年生からの、また、保護者の方々の要望に応え、2011 年度より毎年放射線教育研究授業を行ってきた。教育現場 5 年間とコミュタン福島 7 年間、放射線授業を継続するとともに、文部科学省委託事業「科学的な理解をすすめる放射線教育セミナー」などを介して、放射線出前授業も並行して行ってきた。このような状況の中で、放射線出前授業の課題も明確になってきた。それは、放射線授業を講師に全て任せきりになっており、授業後子どもたちの放射線学習の意欲を高めていないことである。その主な原因として、①児童・生徒に教える前に基本的な放射線の内容の「何を」理解しなければならないか迷っている。②放射線授業を「どのように」教えていけばよいか困っている。これでは、放射線教育の継続的な実践は望めない。</p> <p>そこで、この状況を打開し、「持続可能な放射線教育」を推進していくため次の方策を考えてみた。</p> <p>(1) 『文部科学省出版放射線副読本』の重要な放射線内容を明確に捉え、効率的に覚えられるような「放射線副読本練習問題」を作成する。</p> <p>(2) これまでの放射線授業実践を紹介するとともに、放射線出前授業の講師を招き、先生方に授業の進め方を見て学んでもらう機会を増やす。</p> <p>さて、文部科学省委託事業の成果もあり、(2)の方策は、日本科学技術振興財団によって整備され、今後は放射線出前授業の実践校を増やすだけである。次に(1)の方策について、「放射線副読本練習問題」の特徴を後述する。</p> <p>令和 3 年度に、中学校・高校に勤務する先生方を対象にした「放射線副読本練習問題」を作成した。朝自習の時間などを利用して毎日 10 分程度で 1 講座 1 週間で覚えられる練習問題を 6 講座作成した。これを放射線出前授業の前に実践していただければ確実に基礎的な放射線の内容を覚えることができる。そして、これがきっかけとなって、放射線関係機関から放射線実験器具や放射線測定器などを借用し、①放射線出前授業で講師による授業の進め方を参観、次に②講師による授業支援を頂きながら Team Teaching 放射線授業を行い、最後は③自ら放射線授業を展開できるような支援体制を確立できると考える。</p>
参考文献	文部科学省発行「小学生のための放射線副読本」 福島県教育委員会発行「平成 27 年度放射線に関する指導資料 [第 5 班]」